第3章 箕面市架け橋期カリキュラム

カリキュラムの全体像

架け橋期カリキュラムについて

架け橋期カリキュラムは、幼保小が協働し、共通の視点をもって教育課程や指導計画などを具体化できるよう「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を手掛かりとし、資質・能力を育むことを視野に入れながら策定したものです。「安心」を基盤に、5歳児（アプローチ期）における「学びの芽生え」から小学校1年生（スタート期）の「自覚的な学び」へと向かっていく学びのプロセスと必要な配慮などを可視化しています。

【カリキュラムの視点】

アプローチ期（5歳児）とスタート期（1年生）の教育課程をつながりが見えるように並べることで、育ちや学びの連続性を意識した保育・教育の実践に生かすことができます。

	アプローチ期（5歳児）	スタート期（1年生）
期待する子ども像	生活の場の広がり・他者との関係の広がり・興味や関心の広がり・依存から自立へなど こうした発達も踏まえた期待する子ども像	
遊びや学びのプロセス	諸感覚を通した体験を重ねる 過去の体験のつながり 遊びの中での気付き → 自覚的な学び プロセスを踏まえた内容・配慮	
園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科などの単元構成など	遊びを通した総合的な学び 具体的活動や教科などの単元など	生活科を中心に 合科的・関連的な指導
先生の関わり	幼児と先生との関係を中心としながら他の幼児との関係の広がりへ 自己の世界が広がり、物との関わり方、状況判断、他の幼児との関係ができてくる中での保育者の役割	関わりの多様化へ 丁寧な関わりを通して、自覚的な学びへ ・安心を生み、成長・自立を支える ・気付きをもとに考えることを促す ・気付きの質の高まりを促す
子どもの学びや生活を豊かにする園の環境の構成・小学校の環境づくり	●安心して遊びに没頭できる環境づくり ●自分の思いの実現や他者とつくる世界を楽しむ遊びの発展に配慮 幼児が自発的に環境に関わりたくなる状況をつくる	●自分の力で学校生活を送り自覚的な学びを生み出すような環境に配慮 安心して活動できる環境や主体的に学びに向かえる環境をつくる
家庭や地域との連携	ともに子どもを育むパートナーとしての連携づくり	
地域での取り組み	各地域・校区において持続可能な取り組み	
子どもの交流		
教職員の交流		

※上記の視点を踏まえ、具体的内容をカリキュラムに記載しています。

参考：文部科学省　幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）

架け橋期

共通の視点	アプローチ期 ～子どもがどのように育つかを見据えて～	
	① 5歳児　4月～9月	② 5歳児　10月～3月
期待する子ども像 A	❶日常生活の中で、さまざまな方法でコミュニケーションをとり、他者と関わり合う。 ❷基本的な生活習慣を身に付け、自分で考えて行動する。 ❸身の回りの不思議さに気付き、予想し、工夫しながら、興味や関心をもったものに集中して取り組む。	❶友達と楽しく活動する中で、共通の目的に向かって、工夫したり、協力したりする。 ❷自分たちで生活の場を整え、1日の流れを意識し、見通しをもって意欲的に行動する。 ❸小学校生活を身近に感じ、就学への期待が高まる。
遊びや学びのプロセス ★プロセスを踏まえて配慮すること	**学びの芽生え** ●総合的、複合的で、心との関わりが深い。(「面白そう」「不思議だな」「やってみたい」など) ●体験の中で「気付く」「分かる」。 ●気付きをきっかけにしながら、ひらめいて遊びを進める。 ●やりたいことをやり続ける中で、夢中になる。 ★遊びを通した総合的な学び(学びの芽生え)を意識し、好奇心や探究心、学びが深まるように環境を整え、関わる。 ★学びに向かう力・人間性等を大切に、意欲や好奇心を育てる。 ★主体的な遊びや活動を継続していく中で、試行錯誤や工夫しながら対話し、その遊びや活動の深まりを引き出す。 ★「気付き」につながる環境設定や言葉がけを意識する。 ★継続性のある遊びや活動を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)で意味付けて確認する。	
園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科などの単元構成など ★通年行う活動	★散歩 ★ごっこ遊び ★楽器遊び ★色水遊び ★砂場遊び ★異年齢交流(年下の友達との関わり) ★当番活動 ★グループ活動 ★掃除 ★栽培活動 ●公共交通機関の利用 ●園外保育 ●春夏の草花や生き物に触れる・みつける ●水遊び	●芋掘り ●秋の自然物遊び ●作品展 ●劇遊び ●正月遊び ●郵便ごっこ ●もちつき ●大掃除 ●お別れ会 ●氷づくり ●秋冬の草花や生き物に触れる・みつける ●小学校見学
指導上の配慮事項 先生の関わり B	❶自分なりの目的をもって取り組んでいる姿を認め、自信や意欲がもてるようにする。 ❷自然などとの関わりの中で、子どもたちの気付きや発見を大切にし、自然の面白さや不思議さが感じられるようにする。 ❸ごっこ遊びなどでは、子ども自身が体験したことを引き出し、それぞれの役割について話し合い、進んで参加できるようにする。 ❹子どもが話す時(伝えようとする時)には、聞いてもらう喜び、伝える喜びが感じられるようにする。 ❺一人ひとりが大切にされる中で、人に対する信頼感や個性を互いに認め合う気持ちを育む。 ❻見立てる、イメージを膨らませる遊びを楽しめるようにしたり、その思いに共感したりする。 ❼さまざまな支援や配慮を要する子どもについては、個々の課題などを踏まえつつ、他の子どもとつながり、安心して過ごせるようにする。	❶遊びの中で、それぞれが思いを伝え、自分たちで見通しをもちながら進めたり、解決していけるような機会をもったり、援助を心がけたりする。 ❷子どもが工夫してつくったり、かいたりする姿や豊かな発想を認め、共感していく。 ❸好きなことに集中したり、没頭できる時間を保障しつつ集団で活動したり、話を聞く場面を取り入れたりしていく。 ❹就学への不安に寄り添いながら、一人ひとりの育ちやがんばりを認め、励まし、自信をもって就学を迎えられるようにする。 ❺小学校見学をしたり、入学後の生活について話し合ったりして、入学を楽しみに待つ気持ちを育てる。
子どもの学びや生活を豊かにする園の環境の構成・小学校の環境づくり C	❶自分のしたい遊びが十分楽しめるように用具、遊具を準備しておく。 ❷遊びの中でつくりたくなるようないろいろな素材を用意したり、見本をおいたりして意欲をもってつくれるようにする。(種類別に分けたり並べたりして、使いやすいよう、片付けしやすいよう準備しておく。) ❸楽しいことや好きなことに集中したり、没頭したりできる時間を確保する。 ❹自然の中で遊ぶ機会をもつようにし、未知なものに触れて感動したり、不思議だなと思ったりするような心が動く体験や、自然物を使ったいろいろな遊びが体験できるようにする。 ❺遊びや生活の中で、数える、比べる、分類する、試すなどが自らできるような道具や用具を用意しておく。 ❻興味や関心に合わせて、見る絵本、読む絵本、調べる本などを用意し、子どもが自由に選び、手に取れるようにする。 ❼日常生活で使用するマークや写真には文字や数字を併記し、その関係性に気付いたり、文字や数字に興味や関心がもてるようにする。 ❽一人ひとりの子どもにとって、より分かりやすく、見通しをもった生活が送れるように、視覚教材などの環境を整える。	❶劇遊びなど協同的な活動を通して、共通の目的の実現に向けて試行錯誤や工夫、さまざまな気付きが生まれるようにする。また、友達とイメージを共有し、見通しをもって取り組むことを通して、やり遂げた喜びと満足感が味わえるようにする。 ❷自然事象や自然の変化に気付けるような機会をもち、不思議に思ったり、試したり調べたりする経験ができるような教材や用具を準備する。 ❸時計、カレンダーなどを活用し、時間や日付の経過を意識して活動できるようにする。 ❹文字や数量などへの興味に合わせ、言葉遊び(しりとりや言葉集めなど)や郵便ごっこなどが楽しめるように五十音表や文字スタンプ、鉛筆などを用意しておく。 ❺活動を振り返り、互いの思いや気持ち、考えを知り、共有や共感ができる場や時間をもつ。 ❻園生活最後の時期に充実感がもてるように、修了式の準備や記念品づくりなど、子どもの意見を取り入れ、各自が思いを込めて取り組めるように計画する。 ❼小学校を見学したり、小学校の先生の話を聞いたりする機会をもち、小学校入学への期待感と自覚を高める。
家庭や地域との連携	●充実した園生活を過ごすことが、小学校の生活や学習につながることを保護者に伝える。 ●友達関係の広がりや深まりから見られる子どもの様子などをクラスだよりなどで伝える。 ●遊びを通した子どもの育ちを記録し、遊びや生活の中の「学びの芽生え」について家庭に知らせる。 ●個人懇談などで、一人ひとりの育ちについて保護者と共通理解を図る。	●就学に向けて、個人面談などで保護者とともに一人ひとりの育ちを確かめる。また、保護者の相談には丁寧に応じ、どのように引き継ぎを行うかなど、小学校入学までの見通しを伝える。 ●クラス懇談会などでは、先輩保護者に話を聞けるような場を用意する。 ●特別な支援が必要な子どもについては、保護者の思いを受け止めながら、必要に応じて関係機関との引き継ぎを丁寧に行い、安心して就学につなげられるようにする。

 ※地域での取り組み・子どもの交流・教職員の交流については各校区等にて持続可能な内容を記載

カリキュラム

＊子どもとは…さまざまな支援や配慮を要する
（特別支援教育・外国にルーツをもつなど）
子どもを含むすべての子どもをいう

スタート期 ～子どもがどのように育ってきたかを踏まえて～

③ 1年生　4月	④ 1年生　5月～9月	⑤ 1年生　10月～3月
❶進級した喜びを感じ、新しい出会いを楽しむ。 ❷先生やクラスの友達の名前を覚えるなど先生や友達のことを知り、親しみの気持ちをもつ。 ❸学年での活動や他学年との関わりを通して、困った時には誰かに相談しても大丈夫と思える。	❶先生や友達などのつながりの中で一人ひとりが安心感をもって過ごす。 ❷先生や親しい友達に自分の考えたことや思いを伝える。 ❸学校生活のしくみやルールが分かるとともに、学習に意欲や関心をもち、自ら関わろうとする。	❶自信や見通しをもって意欲的に学校生活を送ろうとする。 ❷自分の思いや感じたことを表現し、相手の意見や考えを聞こうとする。 ❸分からないことや関心をもったことを自分たちで調べたり、伝え合い考えを深めたりする。

自覚的な学び

●自分で立てた目標に向かって子ども自身が見通しをもち、自覚的に学ぶ。
●授業を通して学ぶ。
●学んだことや気付いたこと、経験してきたことを次に生かしていく力を身に付ける。
●少人数で対話したり、絵や簡単な文で表したりすることを通して気付きを言語化する。
★幼児期の経験や育ちを生かして、どこにスポットを当てるか、どこで学びを深めるかをコーディネートする。
★子どもが学びを自覚できるよう、問いかける、気付いたことを発表する機会をもつなどして学びを整理する。
★「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）、「育みたい資質・能力」（3つの柱）、「主体的・対話的で深い学び」を意識しながら、45分単元の授業を行う。

●自己紹介 ●遊具の使い方を教えてもらう ●給食開始 ●学校探検 ●春をみつけよう	●アサガオ栽培 ●生き物の飼育	●芋掘り ●秋をみつけよう ●たねができたよ リースをつくろう ●秋祭り ●新1年生を迎える会準備
❶「ほぐす」「ひらく」「つながる」を心がけ、生活や学習のあらゆる場面で、教師が子どもと子どもをつないでいくことを意識する。 ❷入学当初は、不安を感じがちなので、笑顔で応え、声をかけるなど、子どもとの信頼関係を築くことを心がける。 ❸園で経験してきたことなどを十分に認め、子どもが発表する機会をもつ中で、子ども自身が安心して活動に取り組むとともに、自覚的な学びにつながるようにする。 ❹文字や言葉の理解に個人差があることを踏まえ、視覚支援とともに丁寧な言葉がけや関わりを大切にしながら、安心して活動に取り組めるようにする。 ❺特に初めての経験をする場面では、いろいろな教員が関わり、一人ひとりの子どもにきめ細やかに対応できるようにする。 ❻子どもの集中力や理解面から、短く、具体的に話すよう心がける。（1指示1動作で活動できるよう意識する） ❼いろいろな支援や配慮を要する子どもについては、個々の課題などを踏まえつつ、それまでのつながりや育ちを土台とし、子ども同士の相互理解を促し、安心して過ごせるようにする。	❶幼児期に学んだことを問いかけ、引き出しながら、経験したことを踏まえて、同じ部分や相違点に気付くように言葉をかける。 ❷必要に応じて、簡単な手遊びやゲームなどを取り入れてから授業を始め、学習に意欲的に取り組めるようにする。 ❸子どもたちができたことを認めたり、取り組んでいることを励ましたりして、満足感・充実感をもって学習できるように心がける。 ❹日々の活動を通して、自分や友達のよさに気付けるような機会をもち、一人ひとりが自分らしさを発揮しながら、互いに認め合えるようにする。 ❺見立てる、イメージを膨らませる活動を取り入れたり、その思いに共感したり、他児に広げたりする。	❶学習や生活のさまざまな場面で、幼児期やそれまでに培った力を発揮できるような活動を取り入れ、自信をもったり、さらに伸ばしたりできるようにする。 ❷友達と一緒に考えたり、協力したりできる活動を取り入れ、できるようになったという喜びを感じ、進んで学習に取り組めるようにする。 ❸友達といろいろな考えを出し合い、違いを受け入れて新しい考えを生み出せるよう関わる。
❶学年やグループなどの活動を取り入れ、親しい友達との関わりを軸に子ども同士の人間関係が広がるようにする。 ❷幼児期の遊びや活動を取り入れ、担任や友達と楽しみながら関わる活動を設定する。（簡単な手遊びや友達づくりにつながるゲームを取り入れる） ❸環境の違いや個人差が大きいことを踏まえ、一人ひとりの姿をよく見つめながら、子どもたちができることや経験していることを生かした授業を行う。 ❹モジュール学習（45分の授業時間にとらわれず、柔軟に学習時間を設定する学習方法）を取り入れ、子どもの実態に応じて徐々に45分の授業に慣れるようにする。 ❺生活科を核とした合科的な指導を取り入れることで、子どもの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進める。 ❻すべての子どもが、安心して新しい環境に慣れることができるよう、就学前施設での工夫を生かしながら絵や写真などを使うなど、視覚教材などの環境を整える。	❶隣同士や班など少人数で話し合ったり発表したりする機会をもつ。 ❷子どもや学級の実態や発達を踏まえ、時間割や学習活動を工夫し、編成する。 ❸情報量を精選し、安心して集中して学ぶことができるよう環境を整える。（ユニバーサルデザインに配慮した環境、写真・絵・電子黒板などの視覚情報を適宜活用する） ❹子どもの姿に合わせて、徐々に時計やチャイムを活用した生活を組み立てていく。 ❺1日の生活や学習予定について自分で確認できるよう掲示物を用意する。 ❻すべての子どもにとって、より見通しをもった生活が送れるように、視覚教材などの環境を整える。	❶学習や生活などの場面で、いろいろな友達と協力し合えるよう、班や係での活動の機会を設ける。 ❷生活科を中心にした各教科において、子どもの姿に合わせた単元（合科・関連など）を構成し、配列する。 ❸これから先の予定に期待をもち、自分で確認し、準備をしたり、行動したりできるように、予定表などを掲示しておく。 ❹進級する自覚や期待がもてるような活動を設定する。（新1年生を迎える会など）
●入学式や懇談会の他、連絡帳や学級だよりなどで学校生活や子どもの様子を伝え、保護者の安心感につながるようにする。 ●特別な支援が必要な子どもについては、通っていた園と連携を図り、スムーズに学校生活がスタートできるようにする。	●保護者がいつでも相談できる体制を整えていく。また、保護者、子どもの不安を取り除けるように、共感的、肯定的態度で寄り添う。 ●家庭訪問や個人懇談を通して、一人ひとりの子どもについて、その困り感や成長について家庭と共有し、必要に応じて関係機関と連携を図る。	●進級するにあたり、保護者と成長を喜び合うとともに、不安なことをいつでも相談できるようにしておく。

事例集

架け橋期の事例について

紹介する事例は、本市の架け橋期カリキュラムを具体化した実践事例を集め、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を捉え「育みたい資質・能力」を視野に入れながら、それぞれの時期の子どもの姿、活動や学習の意図やねらい、働きかけから、幼児教育と小学校教育のつながりを検証する際に使用したものです。

子どもたちが幼児期に遊びを通してどのような学びを重ねるのか、小学校では幼児期の遊びを通した学びを踏まえて、どのように教科・単元を展開していくのか、ヒントとなるよう構成しました。架け橋期カリキュラムと照らし合わせ、日々の保育活動や授業の実践にご活用ください。

アプローチ期（5歳児）	①	4月～9月	じゃんけんれっしゃ	P 30
			春をみつけよう	P 32
			アサガオのたねを植えよう	P 44
			虫の飼育、観察をしよう	P 46
			ツマグロヒョウモンの幼虫を飼育しよう	P 47
			色水遊び	P 34
	②	10月～3月	秋の自然物を見つけよう	P 36
			リレーをしよう	P 49
			ドッジボール交流	P 51
			劇づくりをしよう	P 48
			1年生わくわく探検（交流）	P 42
	通年		身近な材料を使って遊ぼう	P 38
			積み木遊び	P 39
			栽培活動	P 45
			時・数などにふれよう	P 50
スタート期（小学校1年生）	③	4月	じゃんけんれっしゃ 【音楽】	P 31
			春をみつけよう 【生活】	P 33
			「どうぞよろしくのかい」をしよう 【国語】	P 52
			がっこうたんけん 【生活】	P 43
	④	5月～9月	くらべたことがあるかな 【算数】	P 41
			ぞうのエルマーをいろでかざろう 【図工】	P 53
			かたちをつくろう 【算数】	P 40
			からだほぐしの運動遊び 【体育】	P 54
			ひらがな　きもちの「き」 【特別活動】	P 55
			アサガオの色水で布染めをしよう 【生活】	P 35
			ちぎってやぶって　だいへんしん 【図工】	P 56
			わかりやすく　せいりしよう 【算数】	P 58
	⑤	10月～3月	秋をみつけよう 【生活】	P 37
	通年		お誕生日会（4月・5月） 【特別活動】	P 57

5歳児 事例の見方

幼児期は、それまでの体験や経験を通した子どもの姿から、その時の子どもの興味や関心を捉え、保育の活動内容を柔軟に考えていきます。そのため、幼児教育の事例では、活動までの経緯を含めた遊びや活動の流れを記載しています。幼児教育の事例から小学校教育へのつながりを見てみましょう。

テーマ・ポイントを記載

学び（自然）

7　5歳児事例

アサガオのたねを植えよう

これまでの経緯・子どもの姿

4歳児の時にさまざまな栽培(菜園)活動を経験し、世話や観察をしていたタマネギを収穫したり、夏野菜やサツマイモの苗を植えたりした時には、感じたことや気付いたことを思い思いに言葉にする姿があった。園庭に咲いているシロツメクサなどを集めて花束や冠をつくるなど、身近にある植物に興味をもっている子どももいる。

育てたい力

○身の回りの不思議さに気付き、予想し、工夫しながら、興味や関心をもったものに集中して取り組む。(A①-❸)

●観察して気付いたことを伝え合ったり、図鑑などを見て植物の生長を楽しみにしたりする。

児童期を見通した工夫

○自然などとの関わりの中で、子どもたちの気付きや発見を大切にし、自然の面白さや不思議さが感じられるようにする。(B①-❷)

○興味や関心に合わせて、見る絵本、読む絵本、調べる本などを用意し、子どもが自由に選び、手に取れるようにする。(C①-❸)

活動の様子

●遊びや活動 ＊様子	●保育者の関わり ＊気付き	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)と教科とのつながり
●紙芝居「あさがおアパート」を見る。 ・感想を言い合う。 ＊「自分たちもやってみたい」とつぶやく子どもがいる。 ●小学校の1年生からもらったアサガオの種について保育者から話を聞く。 ・1年生の取り組みを知る。 ・1年生の存在や小学校を身近に感じる。 ●種の観察をする。 ・色、形、固さ、匂いなどに気付く。 ●一晩水につける。 ・種の変化に気付いたり考えたりしたことを伝える。 ・友達の話を聞く。 ●プランターに種をまく。 ＊これからどうなるかを予想し、クラスみんなで育てることに期待をもっている。	●植物や生き物の目線でかかれた紙芝居を用いることで、それぞれに生命があることをイメージしやすいようにする。 ●アサガオの種や生長過程に興味をもてるようにする。 ●子どもたちのつぶやきに耳を傾け、やってみたいという気持ちを引き出せるようにする。 ＊「何か気付いたことは言ってね」と投げかけることで、じっくり観察していた。 ●変化の様子に生命の不思議さや面白さを感じている姿に共感し、周りの子どもたちにも伝わっていくようにする。 ●自分たちで世話ができるように水やり当番などを決め、大切に育てる気持ちをもてるようにする。	**自然との関わり・生命尊重** **社会生活との関わり** **思考力の芽生え** 言葉による伝え合い 【教科等とのつながり】 「国語」「生活」

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

1年生から種をもらうことを通して、小学校を身近に感じています。また、種を植え育てることを通して、植物が種から育つ不思議さや面白さを感じています。大切に育てた経験が、小学校でのアサガオの生長を観察するといった、より深い学びにつながっていきます。

この活動までに、子どもたちは何に興味をもってどんな育ちがあるのだろう？

架け橋期カリキュラムより抜粋
A→期待する子ども像より
①→時期（5歳児4月～9月）
❸→上から3番目の項目

活動を通してどんな力を育てたい？
○架け橋期カリキュラムより抜粋
●この事例ならではの育てたい力

児童期を見通して、どんな環境や関わりを大事にしたらよいのだろう？

10の姿に照らし合わせるとどんな育ちが見られるだろう？

どの教科とつながっているのだろう？

保育者は子どもたちのどんな気付きや気持ちを大切にしようとしているのだろう？どんな関わりや配慮をしているのだろう？

どんなことが、小学校への育ちにつながっているのだろう？

1年生 事例の見方

小学校教育は、幼児期からの育ちを意識した学習活動の工夫を行っています。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を意識した指導を工夫することで、幼児期からの学びの連続性を踏まえた授業づくりを行うことができます。幼児期の育ちをどのように小学校教育につなげていくかを見てみましょう。

テーマ・ポイントを記載

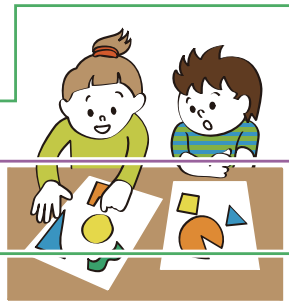
19 1年生事例

〈図工〉ちぎってやぶって だいへんしん

学び(表現)

学習のねらい(教科)

- 破いた紙の見方や置き方、組み合わせ方を工夫するなどして、絵に表す面白さを味わう。
- 破いた紙の形から思いついたことをもとに、表したいことを考える。
- 友達の絵を見ながら、表したかったことや表し方の工夫を見つける。



幼児期の育ちを踏まえた工夫

○幼児期に学んだことを問いかけ、引き出しながら、経験したことを踏まえて、同じ部分や相違点に気付くように言葉をかける。(B④-❶)

○子どもたちができたことを認めたり、取り組んでいることを励ましたりして、満足感・充実感をもって学習できるように心がける。(B④-❸)

学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
導入	教師が行うモデリングを見てやり方を知る。	・ちぎったり、破ったりしてできた紙を見せて子どもたちが思いついたことを、自由に発表させる。 ・組み合わせたり、色をぬったりしてよいことを伝える。	
	かみをちぎったり やぶったりすると、どんなものにへんしんさせられるかな。		
展開	・自分が選んだ紙を手でちぎったり、破ったりする。 ・偶然できた形が、何に見えるか考える。 ・台紙の上に置いてちぎったり、破ったりした紙を並べたり組み合わせたりして、形のちがいを試す。 ・表したいことのイメージを広げながら思いついたことを、パスや色鉛筆、紙片などを使って表す。 ・友達の作品を見合いながら、表したいことについて話し合う。	・いろいろな固さや色、大きさの紙を用意する。 ・偶然できた形が何に見えるかを、考えさせる。 ・つくりたいものをちぎったり、破ったりしてつくるのではないことをおさえる。 ・絵の部分が多くならないように声をかける。 ・イメージがわきにくい子どもたちには、班の友達と一緒に考えてもよいことを伝える。 ・どうしても、イメージがわかない子どもには、個別に声をかける。	**豊かな感性と表現** 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 **思考力の芽生え** 協同性
まとめ	・友達の作品を見て、気に入ったところを伝え合う。 ・仕上がった作品を見て好きなところや工夫したところを伝える。 ・友達の作品のよさを見つける。	・自分の班だけでなく、教室の中を自由に見て回らせる。 ・友達の作品のどこが気に入ったのか、理由も考えさせる。 ・作品について交流し、互いのよさに気付かせる。	**言葉による伝え合い** 思考力の芽生え 豊かな感性と表現

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期に表現する楽しさを味わっている子どもは、小学校においても安心して自由に表現することができます。また、友達のイメージしたことに関心をもち、その工夫やよさに気付くことができます。

この授業はどんなねらいなのだろう?

架け橋期カリキュラムより抜粋
B→指導上の留意事項
先生の関わり
④→時期(1年生5月～9月)
❶→上から1番目の項目

幼児期のどんな育ちがつながっているのだろう?

幼児期の育ちや経験を意識してどのように展開していけばよいのだろう?

学習課題
子どもが主体的に学習に取り組めるように設定しています。

幼児期の育ちを意識した指導上の留意点ってどんなことだろう?

この授業で見られる、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)はなんだろう?

幼児期の育ちや経験を小学校教育でどのように生かしたらよいのだろう?

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）について

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）とは、幼児教育のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園など修了時の具体的な姿を示したもので、幼児教育から小学校教育への円滑な接続となる手掛かりとして活用することができるものです。

健康な心と体	園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	保育者等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな**感性**と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

参考：幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領より

子どもの遊びや活動・学習（授業）にみられる

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

一つの遊びや活動・授業の中から、
さまざまな子どもたちの育ちの姿が見えてきます。

5歳児事例「虫の飼育、観察をしよう」

園庭で虫を見つけた子どもたちは、早速飼育ケースに虫を入れて、
観察したり、図鑑で調べたりして楽しみます。

言葉による伝え合い

不思議に思ったことや驚いたこと、疑問に思ったことなどを友達や保育者に伝える姿があります。発見や感動があるからこそ、言葉で伝える喜びを感じ、楽しむようになります。

自然との関わり・生命尊重

身近な自然に好奇心や探求心をもって関わることで、小さな命の存在に気付き、大切にしようとする気持ちが育まれていきます。

社会生活との関わり

「もっと知りたい！」という思いから、図鑑で調べたり、誰かに尋ねたりします。保育者や家族に、インターネットで調べてもらう、昆虫館に行ってみるなど、周りから情報を集めていくことにもつながっていきます。

1年生事例〈算数〉「かたちをつくろう」

箱や段ボールなどを使って、グループごとに
友達とイメージした物を一緒につくっていきます。

豊かな感性と表現

幼児期のイメージを膨らませながら形にしていこうとする経験を生かし、どんなものをつくりたいか、考えやイメージを表現することを楽しんでいきます。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

幼児期の積み木や製作遊びの中で、物の形の特徴を捉えながら見立てる経験をしています。授業の中で、立体の特徴に着目しながら取り組んでいくことにつながっていきます。

協同性

幼児期に友達と関わり協力して遊ぶ経験を積み重ねることで、授業の中でもグループで友達と考えを出し合い、工夫しながら協力して一つのことをする力につながっています。

人との関わり
（つながり・ルール）

じゃんけんれっしゃ

これまでの経緯・子どもの姿

一斉活動として、「なべなべそこぬけ」「じゃんけん列車」など、友達と関わりながら遊ぶことを通して、ルールを守ったり、友達の思いを感じたりしながら、楽しく一緒に遊べるようにしてきた。「じゃんけん列車」では、負けた時でも気持ちを切り替えて遊びに参加する姿が見られるようになった。スピード調整が難しかったり、じゃんけんをする際、先頭が見つけられなかったりするなどの姿がある。チーム意識が少しずつ芽生えつつあるので、みんなで困ったことや、チームで助け合う方法を一緒に考えていく。

育てたい力

○日常生活の中で、さまざまな方法でコミュニケーションをとり、他者と関わり合う。（A①-❶）
○友達と楽しく活動する中で、共通の目的に向かって、工夫したり、協力したりする。（A②-❶）

児童期を見通した工夫

○自分なりの目的をもって取り組んでいる姿を認め、自信や意欲がもてるようにする。（B①-❶）
○子どもが話す時（伝えようとする時）には、聞いてもらう喜び、伝える喜びが感じられるようにする。（B①-❹）
○活動を振り返り、互いの思いや気持ち、考えを知り、共有や共感ができる場や時間をもつ。（C②-❺）

活動の様子

●遊びや活動 ＊様子	●保育者の関わり ＊気付き	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）と教科とのつながり
●じゃんけん列車のルールを知る。 ●じゃんけん列車１回目をする。 ・音楽に合わせて動く。 ＊話をよく聞いており、ルールを理解し楽しむ姿がある。 ＊ルール理解の難しい子どもは、友達に誘導されながら楽しむ姿がある。 ●困ったことや気付いたことを話し合う。 ●じゃんけん列車2回目をする。 ＊途中でじゃんけんに負け、悔しがり、ゲームから離れる姿がある。 ＊ルール理解の難しい子どもも2回目を楽しむ姿がある。 ＊友達の肩に手を置き、スピードを合わせて歩こうとする姿がある。 ●振り返り ＊友達の悔しい気持ちを代弁しようとする子どもがいる。	●ゲームを始める前に、図を使い実際に動きながらルールを説明する。 ●音楽に合わせて体を動かすことを楽しめるような雰囲気をつくる。 ●ルールの理解が難しい子どももいるが、友達に誘導される形で楽しむ姿を見守る。 ●自分で考えて行動する姿を見守る。 ●友達の話を聞き、自分の思いを伝えようとする姿を認め、必要に応じて支援する。 ＊１回目に楽しめたことで、２回目にも自ら進んで参加することができた。 ●個々の思いに共感しながら、見守る。	自立心 **言葉による伝え合い** 社会生活との関わり **道徳性・規範意識の芽生え** **健康な心と体** 豊かな感性と表現 【教科等とのつながり】 「国語」「道徳」「体育」「音楽」

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

ルールのある遊びを通して、友達とつながり合い、一緒に遊ぶ楽しさや悔しさなど多様な感情を体験していきます。友達とのやり取りを通して、思いを伝え合ったり、気持ちを調整したりする経験を重ねます。

人との関わり
（つながり・ルール）

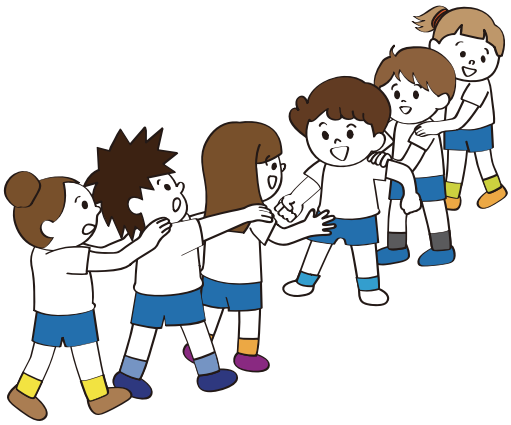
〈音楽〉じゃんけんれっしゃ

学習のねらい（教科）

・友達と一緒に歌い合わせる楽しさを感じ取ることができる。
・友達と関わることで、周りの友達に関心をもつ。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

○「ほぐす」「ひらく」「つながる」を心がけ、生活や学習のあらゆる場面で、教師が子どもと子どもをつないでいくことを意識する。（B③-❶）
○入学当初は、不安を感じがちなので、笑顔で応え、声をかけるなど、子どもとの信頼関係を築くことを心がける。（B③-❷）
○幼児期の遊びや活動を取り入れ、担任や友達と楽しみながら関わる活動を設定する。（簡単な手遊びや友達づくりにつながるゲームを取り入れる）（C③-❷）



学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）
導入	・幼児期に親しんでいた歌の中から歌いたい歌を選んで歌う。 （教科書：はじめの単元より）	・「ちょうちょう」「チューリップ」などは、歌いながら教師の動きをまねしたり、好きなように動いたりして楽しく歌う。	**豊かな感性と表現**
	たのしくうたうにはどんなことにきをつければよいかな。		
展開	・「ひらいた　ひらいた」を歌う。 ・4人グループから8人と人数を増やし、最後は、全員で手をつないで輪になりつぼんだりひらいたりする。 ・「じゃんけんれっしゃ」を歌う。 ・友達とじゃんけんし、勝った人が運転手になり、友達とつながっていく。	・机を下げて広い場所をつくる。 ・友達と手をつなぐ心地よさが感じられるように声をかける。 ・じゃんけんをする相手がいない時は、声をかけてじゃんけんできるように促す。 ・最後は、全員で一つの列車になって楽しむ。	自立心 **協同性** **言葉による伝え合い** 豊かな感性と表現
まとめ	・感想を伝え合う。	・友達と仲よく活動できた喜びや楽しさをみんなで共有し合う。 ・上手くできなかった時は、なぜ上手くいかなかったかをみんなで考え、次につなげる。	言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

新しい環境の中でも、なじみのある歌や集団遊びを取り入れることで、心がほぐれ、周りの友達とつながりやすくなります。

幼児期の活動によるさまざまな感情体験や自分の思いを伝える経験、友達ともっと楽しく遊びたいという思いが、自分たちで解決していこうとする力につながっています。

2−1 5歳児事例

学び（自然）

春をみつけよう

これまでの経緯・子どもの姿

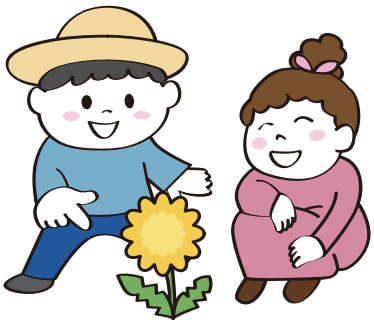
自然が好きな子どもたち。散歩に出かけると草花や虫を見つけては、摘んだり捕まえて観察する姿があった。毎日、給食を食べたあとに、園庭で堆肥づくりや、植物の世話をする当番活動を楽しみにしていた。その中で、「このお花は何？」など名前や、生き物の飼育の仕方について知ろうとする姿があり、図鑑を持って散歩に出かけた。子どもたちは見つけた草花や虫をその場で調べ、持ち帰ってからも大切に育てる姿があった。

育てたい力

○身の回りの不思議さに気付き、予想し、工夫しながら、興味や関心をもったものに集中して取り組む。（A①-❸）

児童期を見通した工夫

○自然などとの関わりの中で、子どもたちの気付きや発見を大切にし、自然の面白さや不思議さが感じられるようにする。（B①-❷）
○自然事象や自然の変化に気付けるような機会をもち、不思議に思ったり、試したり調べたりする経験ができるような教材や用具を準備する。（C②-❷）



活動の様子

●遊びや活動 ＊様子	●保育者の関わり ＊気付き	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）と教科とのつながり
＊当日の朝、図鑑を開いて散歩への期待を膨らませる姿がある。 ●散歩に行く。 ・いろいろなものを見つける。 ・図鑑を見る。 ＊「このお花は〜公園に咲いてる！」など、自分たちが知っていることを伝え合う姿がある。 ＊見守る中で、図鑑では分からないことは大人に聞きに来る姿があった。 ＊捕まえた生き物を飼育しようとする姿がある。	●前日に、子どもたちに、図鑑を持って散歩に行くことを知らせる。 ●子どもたちが自分たちで気付くことや考える時間を大切にしながら関わったり、見守ったりする。 ●発見したものを見て「何だろう？」「なぜだろう？」と疑問に思い考える姿を見守ったり、一緒に考えたりする。 ＊幼虫などが何に育つのかなど何かを知ろうとしたり、調べたりする中で、大切に育てようとする姿につながっている。 ●飼育することは命を育てることだということに気付けるように、言葉でも伝える。 ●飼育活動は保育者も一緒に行っていく。	**自然との関わり・生命尊重** **思考力の芽生え** 道徳性・規範意識の芽生え **自立心** 【教科等とのつながり】 「生活」

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

身近な自然に関わる中で、見つける面白さや楽しさを感じ、興味や関心のあるものについて「知りたい」「面白い」「不思議だな」という気持ちが育まれていきます。その好奇心や探求心、意欲は、学びに向かう姿につながっていきます。また、「自分たちで育ててみたい」という気持ちや「大切にしたい」という気持ちから、主体性も育まれていきます。

学び（自然）

〈生活〉春をみつけよう

学習のねらい（教科）

・身近な自然から春の草花や昆虫に興味をもつ。
・知っている草花や昆虫を見つける。
・友達と一緒に探しながら、楽しむことができる。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

○「ほぐす」「ひらく」「つながる」を心がけ、生活や学習のあらゆる場面で、教師が子どもと子どもをつないでいくことを意識する 。(B③-❶)
○園で経験してきたことなどを十分に認め、子どもが発表する機会をもつ中で、子ども自身が安心して活動に取り組むとともに、自覚的な学びにつながるようにする。(B③-❸)
○環境の違いや個人差が大きいことを踏まえ、一人ひとりの姿をよく見つめながら、子どもたちができることや経験していることを生かした授業を行う。(C③-❸)

学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）
導入	春になるとよく見る花や昆虫について話し合う。 ・自分が知っていることを発表する。 ・友達と協力して、ルールを守って見つけに行く。	・今まで経験してきたことをもとに発表させる。 ・ワークシートには、見つけられそうな草花や虫の絵をかいておく。 ・見つけられたら、絵に〇をする。 ・観察のルールを確認する。	**言葉による伝え合い**
	はるには どんなくさばなやむしが せいかつしているかな。		
展開	校庭やベランダなどに行って草花や虫を見つける。 ・見つけたものに〇をつける。それ以外のものを見つけた時は、言葉で伝える。 ・友達と一緒に観察する。	・探検ボードと鉛筆のみを持ち、観察させる。 ・ワークシート以外の草花や虫を見つけた時は、教師が写真を撮る。 ・クラスごとに移動する。	**自然との関わり・生命尊重** **協同性**
まとめ	教室に戻って見つけたことを交流する。 ・見つけた草花や昆虫を発表する。 ・友達が見つけた草花や昆虫を聞く。 ・授業の感想交流。	・ワークシート以外のものを見つけた時は、取り上げるが、春だけではなく通年みられるものは、春だけでないことを確認する。	思考力の芽生え 言葉による伝え合い

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

身近な自然に「関わる」「触れる」「見つける」「興味や関心をもつ」「知りたいと思う」といった幼児期の経験を踏まえ、子どもの言葉を聞きながら活動を進めていきます。友達と一緒に見つけたこと・観察したこと・気付いたことを発表し、共感し合う中で、心がほぐれ子ども同士がつながる活動となります。

学び（自然）

色水遊び

これまでの経緯・子どもの姿

園庭の草花や花壇に咲いているチューリップ、パンジーの花などで色水遊びを楽しんでいる。「赤色の花は赤色の色水になったよ！」「赤色と黄色の花びらはオレンジ色の色水になったよ」など友達に自分の気付きや発見を伝え合っている。絵の具の混色遊びの経験から、色を混ぜると色が変わることを知っているので、「花びらや葉っぱで全部の色をつくりたい！」と考えている。

育てたい力

○身の回りの不思議さに気付き、予想し、工夫しながら、興味や関心をもったものに集中して取り組む。（A①-❸）

児童期を見通した工夫

○自分なりの目的をもって取り組んでいる姿を認め、自信や意欲がもてるようにする。（B①-❶）
○自然の中で遊ぶ機会をもつようにし、未知なものに触れて感動したり、不思議だなと思ったりするような心が動く体験や、自然物を使ったいろいろな遊びが体験できるようにする。（C①-❹）

活動の様子

●遊びや活動 ＊様子	●保育者の関わり ＊気付き	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）と教科とのつながり
●花びらや葉っぱ、草で色水をつくる。 ・花びらや葉っぱをすりつぶす。 ・花びらや葉っぱの量や水の量を考える。 ●色を混ぜ合わせ、いろいろな色をつくろうと試す。 ・つくれない色があることに葛藤する。 ・友達と気付きを共有し一緒に考え知恵を出し合う。 ・つくり方を教え合う。 ＊全種類の色や自分のイメージした色をつくろうとし、それぞれに試行錯誤したり葛藤したりする姿がある。 ●振り返りをする。 ・友達に自分のつくった色を伝える。	●自分で考えて試すように見守り、必要に応じて言葉がけをする。 ＊知識を得たことや心を動かされたことは、保育者や友達に伝えたい気持ちの芽生えとなった。 ＊今までに絵の具で試した経験を通しての気付きや発見からの学びは、記憶に残り、さらなる学びへの意欲につながっていた。 ●友達と考え知恵を出し合えるように見守り、友達同士をつなぐ言葉がけをする。 ＊協働的な学びにつながっていくと感じた。 ＊子どもが「不思議だな、なんだろう」と感じることで「明日はこうしたい」という期待が膨らみ、さらなる探求心につながった。	**思考力の芽生え** 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 **豊かな感性と表現** 言葉による伝え合い 【教科等とのつながり】 「国語」「生活」「図工」「算数」

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

遊びの中で、自分たちで自由に試すことを繰り返しながら、子どもたちはさまざまな色ができることに気付きます。自分で試行錯誤していく過程を楽しむ中で、色水遊びを面白いと感じ、さらなる探求心につながります。

また、自分の気付きを言葉で周りの人に伝えることで、自らの気付きを確信へとつなげていきます。

学び（自然）

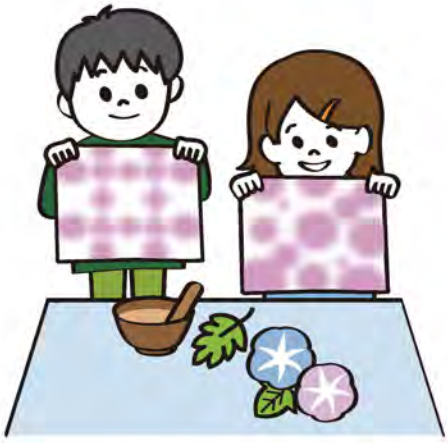
〈生活〉アサガオの色水で布染めをしよう

学習のねらい（教科）

・アサガオに親しみをもち、大切にしながら作品をつくる。
・友達と一緒に布染めをしながら、楽しむことができる。
・アサガオからでる色や、濃さに興味をもつ。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

○子どもたちができたことを認めたり、取り組んでいることを励ましたりして、満足感・充実感をもって学習できるように心がける。（B④-❸）
○見立てる、イメージを膨らませる活動を取り入れたり、その思いに共感したり、他児に広げたりする。（B④-❺）
○隣同士や班など少人数で話し合ったり発表したりする機会をもつ。（C④-❶）



学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）
導入	色水について知っていることや、予想を話し合う。 ・自分が知っていることや経験したことなどを発表する。 ・どんな色になるか、どれくらいの濃さになるかなど予想する。	・今まで経験してきたことをもとに発表させる。 ・さまざまな色の花を用意し、それぞれがどんな色になるか予想させる。 ・色水のつくり方や布染めの仕方を説明する。	**言葉による伝え合い**
	どんないろにそまるかな。		
展開	色水で布染めをする。 ・入れる水の量などを話し合いながら決める。 ・布を折る回数を実際に折りながら考える。	・自分たちで考えて水を加えさせる。役割分担を自分たちで話し合って決めさせる。	自然との関わり・生命尊重 **協同性**
まとめ	授業の感想を交流する。 ・どんな色や濃さ、模様に染まったか気付いたことを発表する。 ・他のグループの色や濃さがどうなったかを聞く。	・揉みこんでいる時の色水の色と、布につけた時の色、乾かした後の色などに違いがあることを確認する。	**思考力の芽生え** 言葉による伝え合い

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期の色水遊びの経験をもとに、予想したり、自分の知っていることを伝えたりするなどの活動を通して、主体性が生まれ、さらに新しい気付きを得ることができます。また、自分の経験から予想し「知っていたとおりだった」という思いや気付きを発表することは、自信につながっていきます。

学び（自然）

秋の自然物を見つけよう

これまでの経緯・子どもの姿

近くの公園に散歩に行き、落ち葉や木の実、ドングリを見つけ、秋の自然に触れて遊ぶ姿があった。また、友達と見つけた物を見せ合ったり、集めたドングリで大きさや数を伝え合っていた。また、園に戻ってからは落ち葉やドングリを使って、友達と砂場でごっこ遊びをする姿が見られた。

育てたい力

○友達と楽しく活動する中で、共通の目的に向かって、工夫したり、協力したりする。（A②-❶）

●秋の自然物を用いてイメージを膨らませながら見立てたり、つくったりして友達と遊ぶことを楽しむ。

児童期を見通した工夫

○子どもが工夫してつくったり、かいたりする姿や豊かな発想を認め、共感していく。（B②-❷）

○自然事象や自然の変化に気付けるような機会をもち、不思議に思ったり、試したり調べたりする経験ができるような教材や用具を準備する。（C②-❷）

活動の様子

●遊びや活動 ＊様子	●保育者の関わり ＊気付き	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）と教科とのつながり
●公園でドングリや落ち葉など秋の自然物を集める。 ●拾ってきた自然物を組み合わせて自分なりにイメージして形にしたり、遊びに取り入れたりする。 ＊自分がイメージしたものに合わせて、自然物の大きさや種類を選ぶ姿がある。 ＊友達のつくる様子を見て、まねをしたり、工夫したりする姿がある。 ●振り返りをする。 ・つくったものを見せ合い、思いなどを伝え合う。	●自然物を集める際の気付きや思い（こだわりなど）に共感する。 ●木の実や枝、芋のつるなどを使いやすいように用意したり、材料や用具などの置き場を整えたりして、イメージしたものに合わせて自分で選びやすいようにしておく。 ●絵本や図鑑などを用意しておき、さまざまな秋の自然物を通して、美しさや面白さに気付けるようにする。 ●自然物のそれぞれの特徴に気付き、考えたり試したりしている姿を認めていく。 ＊子どもの工夫しながらつくったり、試したりする姿を認め、周りの友達に伝えていくことで、次は友達と同じようにやってみようと意欲をもつ姿につながる。	**豊かな感性と表現** **自然との関わり・生命尊重** **数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚** 言葉による伝え合い 【教科等とのつながり】 「図工」「生活」「算数」「国語」

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

1年を通して自然に関わる体験を重ねることで、好奇心や探究心を育み、友達と一緒に楽しみながら、五感を使って季節の変化を感じることができます。秋の自然物に関わる中で、色や形、大きさなどに気付き、感じたことを周りの大人や友達に伝える経験を重ねます。

学び（自然）

〈生活〉秋をみつけよう

学習のねらい（教科）

・身近な自然の様子を観察したり、自然物を利用して遊んだりしながら自然の様子が夏から秋になって変化していることに気付く。
・ルールやマナーを守りながら学校と公園を往復したり、公園で遊んだり観察したりする。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

○友達と一緒に考えたり、協力したりできる活動を取り入れ、できるようになったという喜びを感じ、進んで学習に取り組めるようにする。（B⑤-❷）
○友達といろいろな考えを出し合い、違いを受け入れて新しい考えを生み出せるよう関わる。（B⑤-❸）

学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）
導入	・校庭で見つけた秋について話し合い、公園で何をしたいのか、大まかに考える。	・公園での行動範囲やトイレなどの場所、活動時間を伝える。 ・班の友達と協力しながら活動することを伝える。	社会生活との関わり 健康な心と体 **協同性**
	はるとあきの ちがいは なにかな。		
展開	・虫や樹木、草花を観察する。 ・木の実を拾ったり、草花や木の実などを使って遊んだりする。	・見つけたものを入れるビニール袋を用意させる。 ・見つけたものを大きさや色、形などで比べたり、なかま分けをしたりして、違いや特徴を見つけさせる。 ・観察と遊びを区切らず、自由に活動できるようにする。 ・十分に活動できるように時間配分に留意する。	自立心 **思考力の芽生え** **自然との関わり・生命尊重** 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現
まとめ	・秋の自然の特徴を話し合う。 ・遊んだことや木の実を拾ったことなど、探したものについて、観察カードを書く。	・秋の自然の様子について、色や形、においなどの視点で話すように促す。 ・観察時や遊んだ時の気持ちを想起させる。	**数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚** 思考力の芽生え 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

自然物で遊んだ幼児期の経験や知識を生かして、五感を使って楽しみながら学習に向かいます。見つけたものの大きさや形などを比較したり、特徴を観察したり、友達と一緒に協力し、対話的に活動することができます。